

2020年度「東南アジア青年の船」事業
日本参加青年第2次選考試験の概要

令和2年5月15日
内閣府青年国際交流担当室

1. 教養試験

試験時間：60分

構成：選択式・短答式の教養問題（20問）及び小論文（500字程度）

教養問題は、主に、時事問題、**事業に関連する国々の地理・歴史**、その他、日本の代表青年として知っておくべき知識から出題されます。

小論文も、事業に係る事項が問われます。国際交流一般の論点等について問われる可能性もあれば、事業特有の論点が問われる可能性もあります。

2. 面接試験

試験時間：30分

構成：個人面接（一人4分程度）及びグループディスカッション（10分程度）

内容：4～5人がグループになって、面接を受けます。

個人面接では、グループから一人ずつ面接室に入って、試験官の口頭試問に対して個別に回答します。

グループディスカッションでは、試験官が提示したテーマや質問に対して、応募者同士で議論していただきます。議論の間は試験官は時間管理だけを行い、口出ししません。

3. 英会話試験

試験時間：20分

構成：グループ面接（20分程度）

内容：4～5人がグループになって、同時に面接を受けます。基本的に応募者が横に椅子を並べ、試験官の口頭試問に対して個別に回答します。

上手で完璧な英語ができるかどうかというよりも、自分の考えを英語で相手に伝えることができるかどうかを確認するものです。

4. その他

面接試験の比重が教養試験と英会話試験の合計よりも高くなっていますので、御留意ください。

以上